

## 令和6年度津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会議事録

日時：令和6年7月30日（火）

午前10時00分から

場所：市役所5階 第1委員会室

### 【配付資料】

- 資料1 津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会委員名簿
- 資料2 津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会設置要綱
- 資料3 地方創生推進交付金事業評価・検証シート【令和5年度実施分】
- 資料4 津島市の人口動向について
- 資料5 地方創生10年の取組と今後の推進方向の概要
- 資料6 第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について
- 資料7 第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の関連事業（令和6年度）
- 参考資料 第5次津島市総合計画概要版、令和6年度施政方針等

## 開会

### 市長挨拶

（市長）

津島市では、人口減少、少子高齢化などの様々な問題に立ち向かうために、本市の実情に応じた目標や基本的方向、具体的な施策をまとめた地方版総合戦略「津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の第1期を平成27年度に、第2期を令和3年度に策定し、事業を戦略的かつ効果的に展開している。

本日の委員会では、第2期の総合戦略の進捗状況について報告させていただく。

第2期の総合戦略は、市の最上位計画「第5次津島市総合計画」と一体で策定しており、本日お配りしている総合計画の概要版記載のとおり、戦略1「子どもを産み育てやすい環境をつくる」、戦略2「まちの活力を高め、人の流れをつくる」、戦略3「支えあい、安心して暮らせる地域をつくる」について、関係各課・関係団体が連携して実施することによって、総合計画全体の着実な推進を図っているところである。

また、本市の財政状況は、徹底的な行財政改革により大きく改善し、次のステップに進むための準備ができたことから、昨年度より「子育て支援とまちづくり再生」の2大プロジェクトを進めている。今年度はこれをさらに発展させ、「定住促進」に向けた政策を展開しているところである。今後についても、行財政改革に不断に取り組み、「市政の持続」を常に意識しながら、成長投資をさらに進め、津島市の「価値」を高めていく。

委員の皆様には、外部の方の視点で、忌憚のないご意見等をいただくようお願い申し上げます。

## 委員紹介・委員長の紹介

### 副委員長の指名

### 出席状況の報告

### 資料確認

### 委員長挨拶

本日は様々な立場の方に委員として出席いただいている。忌憚のない意見を積極的に発言いただきたい。

本委員会は急速な人口減少に歯止めをかけ、活力ある地域を創生していくため、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国の長期ビジョン及び総合戦略を踏まえ、津島市の実情に応じた具体的な施策をまとめた「津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を推進する、ないしは情報共有を目的に実施するものである。

本日は、国の「地方創生推進交付金」を活用した事業の成果や、「第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」についての進捗状況等を説明していただくので、ご意見を頂戴したい。

それでは「(1) 地方創生推進交付金事業の進捗、評価、検証について」を議題とする。地方創生推進交付金を活用した事業の進捗や成果、内部評価等について、事務局から説明していただき、その後、各委員から意見を頂戴したい。

まず初めに資料3「地方創生推進交付金事業 評価・検証シート【令和5年度実施分】」の2ページ、「住んで良し！訪れて良し！津島 Style③創出事業～ハピネス津島大作戦！～」について事務局から説明をお願いしたい。

## 議題 地方創生推進交付金事業の進捗、評価、検証について

### 事務局より説明（資料3）

（委員長）

事務局の説明を受けて、意見・質問等があればお願いしたい。

（委員）

周りの子育て世代の話を知ると、広報紙にしっかりと目を通している人は少ない。情報を得るきっかけが広報紙などの紙ベースだけだと目に留まらないということが多々ある。市の取組が知られていないというのはもったいない。世代に合わせて発信方法を工夫し、紙ベースの発信だけでなく、SNSやHPなどで分かりやすく発信していただくと良いのではと感じた。

例えば、ウォーキングマップの作成に併せて、スタンプラリーなどのイベントを開催し、その情報が子育て世帯に届けば、子どもと一緒に参加したいと思ってもら

えるのではないかと思う。

また、「タベスケ」に関しても初めて知った。店舗だけでなく、農家に野菜を出品していただいたり、子ども食堂に利用していただいたりなどのコラボができるとより利用者層が広がるのではないかと思う。

#### (事務局)

令和6年度に作成するウォーキングマップについては紙ベースで配布するだけでなく、ホームページでも発信していくとともに、スマートフォンアプリ「あいち健康プラス」においても、ウォーキングマップを閲覧できるようにする予定である。作成したウォーキングマップの存在を市民の方にどのように知っていただくかが重要であるため、今後いかに周知していくかを考えていきたい。

「タベスケ」に関しては、令和5年3月の運用開始時にチラシの全戸配布を行うとともに、ホームページでの発信を行った。また、令和5年10月には、市公式LINEによる周知も行っている。今後も様々な方法で周知を図っていきたい。また、農家の方の出品については、システム的には可能であると思われるため、ご意見いただいたことも踏まえ、今後利用者層の開拓に向けて取り組んでいきたい。

市の取組をいかに知ってもらうのかは市としての大きな課題である。津島市では、インスタグラムなどSNSを活用した情報発信も行っている。また、「つしまっち」という情報アプリ及びウェブサイトを運用しており、こちらで子育て施策に特化した情報発信も行っている。令和5年度には、津島市の魅力を一つの冊子にまとめた「魅力マシマシ津島市ガイド」を発行した。今後も、より効果的な情報発信方法を検討していきたい。

#### (委員長)

「タベスケ」には大きな関心を持っている。こういった取組が総合計画にも掲げているSDGsの達成にも寄与するものであると考えている。今回、津島市においてはKPIの目標値は達成できておらず、大きな成果をあげることはできなかったが、この結果を踏まえて今後どうしていくのかを検討していけば良いことである。

「タベスケ」自体は他自治体においても導入できる仕組みであると認識しているが、他自治体での実情は把握しているか。

#### (事務局)

「タベスケ」は、現在全国27自治体で運用しており、県内では安城市、江南市、豊田市、津島市の4自治体が運用している。KPIに関しては、当時既に運用をしていた三重県の自治体を参考に目標値を設定したが、市内事業者に登録の働きかけをしたところ、そもそも食品ロスが出ないように取り組んでいるという返答を多くいただいた。現在登録事業者は8店舗あるが出品はない状況である。今後も登録店舗を増やすため、導入のメリットを丁寧に説明しながら働きかけをしていきたい。

(委員長)

トライ&エラーで結果を踏まえて今後どうしていくのかが重要である。今後もSDGsにつながる取組に積極的にチャレンジしていただきたいと思う。

(委員)

スマートフォンアプリ「あいち健康プラス」は私自身よく活用しており、効果的なアプリであると考えている。歩数のランキングが閲覧できるため、ウォーキングのモチベーション維持にもつながっている。本アプリが市民に浸透し、活用者が増えていけば、市民の健康がより向上するのではないかと思う。

(事務局)

「あいち健康プラス」に関しては、現在約 1,000 人の方に登録いただいている。さらに登録者を増やすことで、市民の健康意識の向上につなげていきたい。健康づくりの一步目をいかに踏み出していただくかが課題であり、それに対する施策の一つとして、「あいち健康プラス」の周知に努めていきたいと考えている。

(委員)

病院と連携できると、患者の方に紹介していただいたりすることでより活用していただけるのではないかと感じた。

(委員長)

次に、資料3の5ページ、「官民連携による津島天王通り・ウォークブルストリートプロジェクト」について事務局から説明をお願いしたい。

### 事務局より説明（資料3）

(委員長)

事務局の説明を受けて、意見・質問等があればお願いしたい。

(委員長)

「空き家所有者アンケート」に関して、回答が得られなかった53件の空き家の状況を把握しているか。

(事務局)

回答のいただけなかった空き家に関しても所有者は把握しているが、アンケートを郵送しても回答がなかったという状況である。また、回答のあった空き家に関しても、シャッターは閉まっているが、倉庫として活用していたり、実際にはそこに住んでいたりとなどの状況もアンケートで確認することができた。

(委員長)

シャッターの閉まっている建物が増えている要因には、大型スーパーの進出だけでなく、そもそも所有者が別の用途で利用しているなどの事情もあるということがアンケートを通して分かったことと思う。商店街に賑わいを取り戻すためには、そういった要因も踏まえて、空き家所有者にいかに協力していただくかを考えることが非常に重要である。2023年に「空き家対策特別措置法」が改正され、「特定空き家」に加えて、特定空き家の前段階である「管理不全空き家」を認定し、指導等することが可能となり、国も空き家対策に力を入れていることが分かる。津島市として空き家対策に取り組まれているか。

(事務局)

状態の良くない空き家に関しては、不動産会社による流通も進まない。津島市として解体に係る費用への補助や津島市で新築やリフォームをされる方に対する補助などを実施しており、こういった取組も周知を進めていきたい。

(委員)

改修等に際して街並みに係る規制などはあるか。また、空き家所有者アンケートでいただいた空き家の利活用に前向きな回答3件のほか、それ以降で前向きな申出などはあったか。

(事務局)

商店街に関しては、都市計画法で商業地域の規制がある。現状、景観に関する規制はないが、今後はそういった規制をかけることも検討している。アンケートでいただいた前向きな回答以外では現状申出はいただいているが、アンケートを実施したことで、空き家を活用したいという事業者からの問い合わせは数件いただいている。

(市長)

津島市では、令和2年度から令和11年度までの10年間の「歴史的風致維持向上計画」を策定し、県下では4番目、東海三県では14番目に国の認定を受けている。また、令和5年8月には、「景観行政団体」として景観法に基づき、良好な景観の保全・形成を図る等の景観行政事務を実施することを認めていただいている。そして、令和8年4月を目標に「景観計画」の策定を予定している。策定にあたっては、住民の皆さんの合意形成が非常に重要である。これまでも複数回ワークショップを実施し意見等をいただいている。生活しやすく景観もよいまちづくりを戦略的に進めることで、津島市への移住を促進していきたい。

(委員)

津島市の商店街とはどのエリアのことを指しているのか。

(事務局)

津島市としては、主に津島駅から津島神社までの天王通りと本町筋、名古屋津島線のあたりを中心とした「商店街組合」の理解を得ながら進めていきたいと考えている。

(委員)

地元の方に愛される商店街を目指して、商店街の活性化を進めていただきたいと思う。

(委員)

古い町並みや空き家などに関して、耐震化が十分なのかは気になるところである。まちづくりにあたっては、地震などへの備えも考慮してリノベーションなどをしていただくようお願いしたい。

(事務局)

今年度より、「空き家・空き店舗リノベーション事業費補助金」というものを創設した。また、木造住宅に対する無料耐震診断を実施している。こういったものを活用して地震に備えていただきたいと考えている。

令和4年度にいちい信用金庫より寄附いただいた、旧いちい信用金庫天王通支店の建物をどのように活用していくのかが非常に重要であると考えている。これを核とした天王通りのにぎわい創出に向けて、津島市では現在取組を進めているためご承知おきいただきたい。

(委員長)

それではこの議題はここまでとして次に移らせていただく。

## 議題 第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗について

事務局より説明（資料4・5・6・7）

（戦略1・子どもを産み育てやすい環境をつくる）

(委員長)

事務局の説明を受けて、意見・質問等があればお願いしたい。

(委員)

目標指標「将来の夢や目標を持っている子どもの割合」に関して、子育て支援等が直接的に影響を与える指標ではないと思われるが、なぜこれが目標指標となっているのかを教えてください。

(事務局)

この目標指標は、戦略1のうち、施策2『子どもの「生きる力」を育む教育の充実』に関連する指標となっている。主な事業としては「ロボット・ブロックプログラミング教育事業」などがあり、こういった事業を通して、子どもに将来の夢や目標を持ってもらいたいというところから、目標として掲げさせていただいている。

(委員)

「小中学校給食費完全無料化」や「18歳までのこども医療費完全無料化」などの「子育て支援トータルプラン」に関しては、他自治体と比較しても遜色ない充実した支援内容になっていると思う。これだけ充実した支援を津島市が行っているということを手くPRすることで、子育て世帯の市外への流出に歯止めをかけることができるのではないかと期待している。「ロボット・ブロックプログラミング教育事業」に関しては、学校訪問の際に拝見させていただいたが、子どもたちが生き生きとした表情で取り組んでいた。

(事務局)

市民の方からも津島市の子育て支援は充実しているとありがたいお言葉をいただく機会も増えたように思う。施策を実施してからその効果が目に見えて現れてくるまでには時間がかかるため、継続的に実施しながら施策の効果を検証していきたい。また、施策のPRを積極的に行い、「子育てするなら津島」と思ってもらえるよう努めてまいりたい。

(委員)

周知方法に関して、ハローワーク津島の庁舎内に市の情報を発信するコーナーを設置できないかと検討している。市と連携して、ハローワークを利用される方に周知できると良いのではないかと考えている。

(事務局)

市の情報を発信する場所を設けていただけるというのは大変ありがたい提案である。市内の施設それぞれに訪れる方の傾向に併せた効果的な情報発信をしていきたい。今年度、日本郵便株式会社と包括連携協定を締結し、郵便局においても津島市で作成したチラシなどを置くことができるとお話をいただいている。民間の力もお借りして、より多くの方により適した情報を発信していきたい。

(委員)

戦略1の施策3「地域で子どもを見守り育てる環境の充実」に関して、西尾張シーエーティーヴィ株式会社では津島市と連携して、市内小学校1年生から3年生までを対象に、見守り端末を配布し、「津島市子ども見守りサービス」を開始した。多くの家庭や店舗に協力いただき、センサーを設置して、市全体で子どもを見守る

体制が整いつつある。安心安全に暮らせる津島市をもっとPRするとともに、暮らしやすい環境づくりの手助けができればと考えている。

(委員長)

行政だけではできないこともある。事業者や市民一人ひとりの活動が重要なポイントになってくる。

(委員長)

質問等も尽きたようなので、引き続き、事務局から説明をお願いしたい。

#### 事務局より説明（資料5・6・7）

(戦略2・まちの活力を高め、人の流れをつくる)

(委員長)

事務局の説明を受けて、意見・質問等があればお願いしたい。

(委員)

企業誘致された際に求人に関して、ハローワークにも情報提供いただけると連携できるのではないかと感じた。

(委員)

津島市には宿泊施設が足りていないように思う。古民家などを活用して宿泊施設を整備し、インバウンドの需要などを取り込むことができれば、もっと活力あるまちづくりができるのではないかと感じた。

(委員長)

質問等も尽きたようなので、引き続き、事務局から説明をお願いしたい。

#### 事務局より説明（資料5・6・7）

(戦略3・支えあい、安心して暮らせる地域をつくる等)

(委員長)

事務局の説明を受けて、意見・質問等があればお願いしたい。

(委員)

高齢者サロンのボランティアをするなかで、コロナ禍以降参加人数が随分減ってしまったのを実感している。もっと多くの高齢者の方に参加いただきたいと思うところである。



(事務局)

コロナ禍で活動への参加を控えた方たちがそのまま活動を止めてしまうというのは大きな課題であると感じている。また、そういった交流の場、活動の場に関心のない方、関心はあるが参加できない方などにいかに交流や活動に参加いただくのかというのも大きな課題であると感じている。こういった課題に対してどう働きかけていくとよいか、市民の方からもご意見を伺いながら考えていきたい。

(委員)

戦略3の施策2「防災・減災対策の推進」に記載の「地域防災の担い手の育成と取組」に関して、具体的にどんな取組を行っているか。若い世代の方に担い手になっていただきたいと思っているが、働き続ける年齢も長くなっているためなかなか難しいと感じているところである。中学生・高校生の頃から防災教育をしていただく大人になったときにも意識していただけるように思う。

(事務局)

毎年度、2小学校区ずつ順番に防災訓練を実施している。防災への関心が低い方も多くいらっしゃるなかで、若い方にいかに防災訓練に参加していただくかというのは課題である。周りの方からお声掛けいただいたり、親御さんに子どもを連れて一緒に参加していただいたりなど、市民の方にもご協力いただきながら、意識醸成を図っていくことが、担い手育成の第一歩になると考えている。

(委員)

婚活イベント「天王祭 de ご縁結び」の成果はどうだったか。

(事務局)

当日は、男女各17名の方に参加していただいた。お祭りを見ながらコミュニケーションをとっていただくことで、皆さん盛り上がり参加いただけたように思う。アンケートの結果はこれから集計を行うため、具体的な成果までは明らかになっていないが、一定の成果は得られたのではないかと感じている。

(委員)

津島の総合プールは現在利用休止中となっているが、水泳は健康づくりにも効果の高い運動であるため、可能な限り早く利用できるようにしていただきたい。

(委員長)

それでは、質問等も尽きたようなので、議題「第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について」は終了する。最後に市長から一言お願いしたい。

(市長)

貴重な意見を多数いただき感謝する。昨今、人々の関心も多様化してきている。情報発信に関して、広報紙だけではなかなか皆さんに情報を届けることができない。YouTube のショート動画や Facebook、インスタグラムなどでも情報を発信しているため、ぜひ一度ご覧いただけたらと思う。

ウォーキングマップを配布するだけでなく、スタンプラリー形式にしてみるといったご意見もいただき、単に情報を発信するだけでなく、興味を持ってもらう、思わず参加したくなるような仕掛けを工夫するところまで、練り上げていく必要があると感じた。

高齢化に伴う後継者不足は全国的な課題である。防災に関して、津島市としては若い世代も巻き込んだ防災教育を推し進めているところである。

市民一人ひとりがボランティアなどの活動に参加することは大変価値のあることである。最終的には自分を、家族を、地域を救うことにつながる。そして、関心のない若い世代にこのことを伝えていく必要がある。そうでなければ、近い将来ほとんどの活動団体が後継者不足で存続の危機に直面することになる。

令和6年4月から「東公園整備推進室」を新たに設けた。令和6年度、令和7年度で「スポーツ推進計画」を策定し、今後、総合プール等のスポーツ施設を伴う東公園の整備を進めていく。津島市に人を呼び込むためには「スポーツ」が一つのキーワードとなってくる。東公園が市民に親しまれ、かつ広く多くの方にとってのスポーツ公園となるように整備していきたい。

先日、人口戦略会議が津島市を「消滅可能性自治体」に分類した。これは約20年前の人口動向に基に、地域問題研究所が発表した将来人口推計に基づいて分類されたものである。一方で、毎年度の確定値を基に東洋経済が算出している「都市データパック」によると、津島市の住みよさランキングは県内38市中20位、全国812市中304位となっており、財政健全度に関しても全国812市中195位となっている。どのようなデータを基に読み取るかで、分類の結果も大きく異なってくるため、あまり悲観的になりすぎず、前向きなPRに取り組んでいきたい。

最後に、津島市は全国トップクラスの「子育て支援トータルプラン」に取り組んでいる。皆様も津島市の前向きなPRにお力添えいただきたい。

(委員長)

「消滅可能性自治体」という言葉にあまり振り回されず、明るい展望を描きながら、津島市らしいまちづくりに取り組んでいただきたい。

(事務局)

それでは、本日はこれにて閉会とする。

閉会